

昼TRY部の考える教育と自己理解



ボードゲームの様子。自然と会話が生まれる

それぞれの選択

NPO法人D.Liveは子どもと、子どもに関わる大人を対象に様々な活動を行なっている。今回取材した昼TRY部は、県内にあるフリースクールのひとつで、小学5年生から高校3年生の不登校の子どもたちを対象としている。働いているのは元教員や大学生だ。

フリースクールと聞くと、学校のように勉強をしているとイメージする人が多いかもしれない。しかし、ここでは子どもたちは自由に過ごしている。ソファで寝転がったりゲームをしたり、もちろん勉強をしたい子は勉強をするし、教材が欲しいといえどアドバイスをすることもあるという。昼TRY部では、子どもたち自身が自分の持っている力を知り、その上で自身が社会で生きていく力を育てている。

「質の高い教育」とは

SDGsの17の目標のうち、4つめの目標として挙げられているのが「質の高い教育をみんなに」という目標だ。確かに日本国憲法26条では社会権の1つとして「教育を受ける権利」が保障されている。

しかし昼TRY部で多くの子供たちと接し未来へ送り出してきた田中さんは「今の社会ではマイノリティーの子どもたちにとって学ぶ機会が足りていない。質の高い教育とは、子どもたち自身が学びたいことを学ぶ機会があること、そして選択する自由があることだ」と話す。

コロナ禍により生み出されるICT教育環境の差に端を発するような学びを受ける場所だけではなく、様々な理由で学校に通うことができない子供たちの学びへの選択肢が狭められることこそが教育の格差を広幅化させる要因なのだ。

現在滋賀県では、フリースクールに対する社会的支援はほぼ無いという。子どもたちの学ぶ機会を拡充させ心の環境を整え、未来への希望を繋ぐことが我々の使命なのではないだろうか。

今持っている武器で戦う 「生きる力強さ」

自分の才能って何だろう。自分に出来ないことって何だろう。そんな事を考えたことはあるだろうか。世界の論理では人間は外向型・内向型の2タイプに選別され、社会に適合するか否か「良し悪し」がしばしば議題に挙がる。だがその「良い悪い」とは、誰にとっても「良い悪い」なのだろう。社会にとってなのか、それとも大多数にとってなのか。田中さんは「誰かを見て落ち込んだり自分を責めたりするのは、自己についての理解が足りていないから。自分が出来ないことと出来ることを正確に知れば、今自分の持っているものが全て、あなた自身の

才能であることに気づく事ができるだろう」と話す。その人らしく生きること、頑張らないこと。それこそが社会で生きていく上での「生きる力」なのかもしれない。



テレビゲームをする
子どもたち

取材先 NPO法人 D.Live

NPO法人 D.Liveでは昼TRY部を始め、tudotokuやおとなTRY部など、「子ども」と「子どもに関わる大人」を対象に様々な活動をしています。今回はその中でも昼TRY部の活動を取材しました。



取材者

聖泉大学 寺川 慧
看護学部 看護学科2回生

滋賀大学 真鍋 安夕
教育学部 学校教育員養成課程1回生